

2021年5月31日

JAM日本コンベヤ労働組合の反対表明(2021年5月25日)に対する当社の見解

TCSホールディングス株式会社

本年5月25日、NCホールディングス株式会社(以下「NCHD」といいます)のホームページ上に、JAM日本コンベヤ労働組合(以下「労働組合」といいます)が、TCSホールディングス株式会社(以下「当社」といいます)等株主23社(以下、総称して「TCSグループ」といいます)が提案する取締役選任案への反対表明(以下「本意見」といいます。)が掲載されました。

労働組合として、従業員の労働環境を維持・改善するため、また憲法及び労働組合法等で保障されている団結権・団体行動権等を行行使するため、従業員の労働環境に影響し得るNCHDの経営に関連する意見を積極的に表明することそのものは、歓迎されるべきことと考えております。また、TCSグループが行った株主提案に対し、労働組合も高い関心をお持ちであることについても、歓迎されるべきことであるとと考えております。

もっとも、本意見については、TCSグループについて、やや客観性・公正性に欠けた記述が散見されておりますので、若干ではございますが、本意見に関する当社の見解を以下申し上げておきたいと思っております。

1 梶原浩規氏が2018年6月にNCHDの代表取締役に就任された後に、労働組合との間の協議で一定の進展があったのは、事実です。しかし、この進展は、2018年5月に当社の代表取締役に高山芳之が就任して以降、労働組合とより良好・協調的な関係を構築することを目指す方向に方針転換したことが背景にあることも、事実であります。私共は、今後とも労働組合とは正面から向き合い、議論を進める中で調和を目指すことを追求して参ります。

2 「武藤工業、セコニック、ニッポー等、まともに発展してきた企業は一社もない」との記述や「TCSは社会悪そのものであり、企業再編を労組潰しに悪用し続けるブラック企業に過ぎません」等々の表現は、極めて残念な表現と言わざるを得ません。もっとも、そのような情報を開示という手段を用いて、不特定多数の者に伝播させたのは、梶原浩規氏らNCHDの現経営陣です。当社としては、手段を問わず、TCSグループの社会的評判を貶めようとする梶原浩規氏らNCHDの現経営陣の判断について、疑問に思うところです。

労働組合の内部でも多様な経営に関する意見があると思いますが、様々な観点から経営方針の是非についてご判断頂けますようお願いいたします。

本日現在、当社ホームページにNCHDの従業員の皆様にあてて情報発信しています。

来る6月3日、4日に東京、大阪にて、勤務時間外に会社外の施設をお借りして、NCHDの従業員と家族の皆様を対象にした説明会を開催予定です。

また、労働組合の皆様に対しましても、定時株主総会による株主提案の承認可決を待たずに、協議を行うことを既に申し入れをしております。

以上